

9月から1月までの自治会を振り返ります。

◆9月6日 敬老祝賀会

77歳以上の方が対象で、396名の方に招待状を出し、77歳を迎えた方には記念品(携帯ボトル)を渡しました。また今年も、浜工出身で三遊亭可風師匠の落語会に50名近くの方が足を運び、たくさんの笑いが生まれました。皆さんのこれからの健康を祈念しています。



たんぼぼ保育園おやじだ太鼓



北星中北星太鼓

◆10月19日 フェスタ初南

ステージでは、コミホ利用サークル(書道、空手、居合、ロコモ体操)の発表や太鼓(たんぼぼ保育園、北星中)、子ども参加のゲーム大会(高校生の企画運営)、お菓子まきと餅投げ、睦会の輪投げ、自治会各部の飲食(チョコバナナ・かき氷・焼き鳥・ポップコーン・綿菓子)と遊びコーナー(メダカすくい・射的・くじ引き)、成年会有志の焼きそば、とぴあ女性部の野菜直売、英語で遊ぶ、木工工作、アクセサリ制作、たこ焼きそして抽選会などで、町民の親睦と交流の場を作りました。



ロコモ体操実演



ヨーヨー釣り



子どもゲーム大会、菓子まきに大活躍の高校生たち



書道パフォーマンス



◆11月9日 2回目の可搬ポンプ訓練



毎年2回行っている訓練です。消防団29分団のご指導の下、可搬ポンプの操作を体験しました。放水はかなりの水圧で2～30m飛ばすことができます。火災があった際に、活用できるためには水源が必要になります。長池調整池の水を利用しています。訓練としては十分ですが、火元まで可搬ポンプを運ぶことや、放水のための水タンクが必要になるので、実際の火災にどれだけ迅速に対応できるか、検討を重ねながら、訓練を積み重ねていきたいと思ひます。

◆12月7日 6自治会合同防災訓練



中高生が、70名以上参加して、5つのコーナーを体験してくれました。町民の方には、安否確認のタスキ掛けをお願いしましたが、50%台でした。当日自治会役員の参加は義務付けられてい

ましたが、一般町民の参加は少なく、改善の余地がみられる訓練でした。避難所設営や防災への関心を高めることが今後の課題です。

1月11日初生小親子凧揚げ大会



はまつ祭りに子どもたちが一人でも多く参加してもらうために、企画された初生小親子凧揚げ大会、予定していた12月21日が雨天のため1月11日に延期して、初生小グラウンドにて行いました。総勢100名を超える申し込みがありました。延期されたことと強風吹きすさぶ極寒の天気であったため、参加者は少なめでしたが、初組と初北組の凧をあげ、上がった凧の糸も持つことができました。また参加者にはカイトをプレゼントし、さっそくカイトをあげている親子もありました。5月3～5日のまつり本番に向けて、盛り上げていきたいと思ひます。



1月18日 炊き出し訓練実施

今年のかまどで薪を使い、 α 米を炊き、豚汁をつくり、参加者に配りました。火力はアップしました。防災ビンゴや浜松市作成の防災カルタを親子で楽しみました。



～防災グッズをそろえていきます～



ポータブル電源

防災士推奨 非常用トイレ



組み立て式簡易段ボールベッド



一人用防災テント



ここ三方原地区は、地盤が強固で、津波や洪水の心配も少なく、安全を求めて住むことを決められたご家庭もおりかと思えます。しかし温暖化による台風の巨大化や集中豪雨による、停電や断水のリスクが年々高まっています。また浜松市では津波で被災して避難生活をされる仮設住宅が2万個不足している状況です。自分たちは大丈夫でも、被災した方たちを受け入れることも想定していかなくてはなりません。テクノロード添いの防風林が松枯れで枯れた松は伐採されましたが、伐根をしていかないと、有効利用できません。将来震災時に応急仮設住宅の用地として活用していくことを主眼として、防災機能をもった公園的な場所として運営を担っていく方向で三方原自治連で積極的にかかわっていきます。そしてなにより住民が日常的に顔の見える関係を築き、非常時に助け合えるようなネットワークをつくるのが何より大切になります。自治会活動はそのためにあるといっても過言ではありません。防災グッズも自治会予算でストックしていきます。備えあれば憂いなしです。

次年度は、防災フェスタを自前で準備して、町民の皆さんが楽しく参加して、防災意識を高めていけるようにしていきたいと思えます。（自治会長 大野木龍太郎）